

# 大久保町（マチ） 界隈のおはなし

松野憲一郎

先日アルバイト先の仲間 S 氏から大久保チョウ大久保マチについての資料をいただきましたので皆さんにご紹介いたします。S 氏は生まれも育ちも大久保マチで今は市内の別のところにお住まいですが、現在でも大久保町（マチ）住吉神社の役員をしています。

## 町名の由来（エンサイクロペディアより）

明治には、明石市と別に大久保村が存在しており、その中心地は江戸時代から宿泊地として大久保町（マチ）という地名があり、大久保村大久保町という、村の中に町がある不可思議な地名が存在していたとかしないとか、その後、大久保村が大久保町に昇格し、大久保町大久保町という訳の分からぬ名前になり、その後明石市と合併時に、名前の変更に誰も気にしなかったのが現在に至ったとも言われる。しかし繰り返しの地名に結構、地元の人も楽しんでるらしい。この地名は確かに現在でも兵庫県明石市に実在し、因みに、大久保町大窪というややこしい地名も隣接している。また、期待通り、大久保小と大久保中は、大久保町大久保町の方にあります。

## 山陽道大久保宿

山陽道は西国街道とも呼ばれ、ほぼ現在の国道二号線に相当します。播磨国内は神戸市垂水区から、赤穂郡上郡町船坂峠まで東西に走っています。播磨の宿駅は、東から明石・大久保・加古川・御着・姫路・鶴（いかるが）・正条（しょうじょう）・片島・有根（うね）と続きました。ちなみに播磨と攝津の国境は垂水の境川によります。

大久保に本陣が設けられたのは、播磨国の領主だった池田輝政のころで、慶長5年(1600)~同18年(1613)だったと思われる。松平信之(1659年明石藩主に就任)の頃には、本陣安藤助太夫、脇本陣林屋与兵衛であった。宿場町として栄えるにつれて、80軒の商家が沿道に並んだといわれ、そのうち旅籠が十数軒もあった。明治3年(1870)には本陣も脇本陣も廃止され、本陣は村役場になったが、明治21年(1888)に山陽鉄道(現在のJR)が開通、宿場はさびれていった。

大久保宿と山陽道の位置はJR大久保駅を北側に降り、三井住友銀行の横の道を北に行き最初に交差する道(旧山陽道)を東に800m程歩いた場所に大久保宿があったと思われます。本陣の位置は現在も安藤という表札がかかった大きな塀のある家のように。直ぐ東隣に常徳寺という真宗の寺があります。残念ながら本陣跡の表示板とかの目印は道路からでは見ることができません。先程の安藤家の塀の中にあるとのこと。

旧山陽道大久保宿の本陣があった安藤氏宅



## 幽霊屋敷ではありませんよ

J R大久保駅から旧山陽道を200mほど東に歩いた右側に幽霊屋敷のように見える洋館があります。通常の建物の1, 2階に相当する部分は周りの建物等によく見えませんが3, 4階に相当する部分は付近を通る際は必ず気付くと思います。私も西明石から大久保までよく散歩をする中でこの建物のことが気になっていました。このたびS氏から頂いた資料で次のことが分かりましたので紹介いたします。

この建物は、地元出身の有力者安藤新太郎氏が大正7年(1918)出身地でゆっくり過ごそうと考えて着工し、翌年に完成しましたが同氏はこの家に住むことなく大正8年に急逝され、その後どなたもお住まいになることなく現在に至っております。

もう少し安藤新太郎氏のことを記します。安藤新太郎氏は、明治元年庄屋橋本氏の出で安藤家(本陣を営んだ家)の養子となる。明治22年明治法律専門学校卒業後、海運会社に従事後独立。明治36年より衆議院議員、その後辰馬汽船、浦賀船梁の取締役就任。日本汽船問屋業同盟会長を勤め、大正5年勲三等授与。政界を引退してからは、神戸・奥平野に広大屋敷を構えたが、ふるさとへの思いから邸宅の新築にかかった。

建物の設計は、明石郡伊川谷村出身の加護谷裕太郎氏で外壁は重厚な総石造りで、屋根はマンサード・ルーフ(切妻屋根の変形、屋根の勾配が上はゆるく、下が急な二段になっているもの)という珍しいもの。緑色のスペイン瓦で葺かれており、大きな三連の丸窓も取り入れられている。ポーチはふくらみを持ったルネッサンス様式の柱で支えられた当時では最先端のハイカラ建築であった。

この建物の前に「明治天皇大久保御少休所建物」の石柱が建っています。これは明治18年(1885)に明治天皇が西国巡幸をされた際に休まれた建物(木造書院造り)で、もともとは本陣安藤家にあったものを洋館建築時に移設したものです。

安藤新太郎氏建築の洋館



明治天皇大久保御少休所建物の石柱



## 大久保町（マチ）住吉神社

大久保宿本陣安藤家の南側約100mの場所にこの神社はあります。

御祭神 底筒男 命（そこつつのおのみこと）中筒男 命（なかつつのおのみこと）

表筒男 命（うわつつのおのみこと）

気長足姫 命（おきながらたらしひめのみこと）（神功皇后（じんぐうこうごう））

由緒 天正16年6月（1588年）創建。 6年前に本能寺の変

年号	西暦	
元和3	1618	初代明石藩主に信州松本から小笠原忠政（忠真）が就任
寛永6	1629	大久保町 住吉神社社殿を再建
慶安2	1649	9代明石藩主として篠山から松平忠国が入封
	1655	忠国、松陰新田の開発
元禄14	1701	9代藩主に松平直常が就任
元禄14	1701	石の鳥居を再建
元禄15	1702	赤穂浪士の討ち入り
享保14	1729	8代将軍吉宗に献上される象が大久保町宿に泊まる
文久元年	1861	大井清、官司就任、1931年（昭和6年）まで務める
明治2	1689	6月 19代藩主 松平直致（なおむね）版籍奉還
明治6	1873	郷社に列せられる
明治21	1888	山陽鉄道（現在のJR）開通
明治30	1897	明治大水害が大久保町を襲う
大正15	1926	明治水害記念碑 建立

### （追記） 大久保町三部作について

山陽道、大久保宿についての資料はS氏から頂いた資料では少し足りないところがあり、図書館の本で一部補いました。またインターネットでも種々調べるなかで「大久保町三部作という長編小説があることを知りました。この本の著者は田中哲弥さんという方でした。どこかで聞いたことがある名前だと思いましたが、なかなか思い出すことができませんでした。

ああそうだ、数年前に芥川賞を受けテレビのインタビューでユニークな発言をした方ではないか？と気付きました。これは大発見？と思い調べたところ2012年前期の芥川賞を受賞された方は田中慎弥氏で全くの別人であることが分かりました。なお、大久保町三部作とは、「大久保町の決闘」「大久保町は燃えているか」「さらば愛しき大久保町」というタイトルで電撃出版より出版、その後ハヤカワ文庫から再刊されていました。折角ですので読んでみようかと思いましたが、インターネットの読者書評を見ると「大久保町の決闘」は「OK牧場の決闘」の語呂合わせから発想したのではないか？というのを目にしたため、まだ読んでいません。ご興味のある方はお読みになっては如何ですか？

#### 大久保町 住吉神社



#### 安藤新太郎氏建築の洋館

洋館の右側の木造の建物が移築された明治天皇御小休所の建物か、またはこの建物の奥にもう1棟木造の建物があるためその建物の方かは不明です。

